

事前避難入院について

避難入院とは・・・

「被災することを回避するための入院の取り組み」（文献1）

◎令和2年9月の台風10号が沖縄・九州地方に接近した際の、避難入院の実績調査（文献2）

→避難入院は9県32医療機関で行われ、避難入院をした患者総数は128名であった。

そのうち人工呼吸器装着数は79名で、61.7%を占めていた。

	実施医療機関数	避難入院患者数	そのうち人工呼吸器装着患者数
長崎県	8	36	24
熊本県	2	24	22
沖縄県	2	20	0
宮崎県	2	18	15
福岡県	5	8	6
大分県	2	6	6
鹿児島県	2	5	1
佐賀県	6	6	2
山口県	4	5	3
高知県、愛媛県、広島県はゼロ			

病名：（記載のあった108名を対象）

ALS：35名、筋ジストロフィー17名、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症14名

（熊本県は神経難病患者以外に重症心身障害児者19名、そのうち人工呼吸器装着者は14名を受け入れしていた）

避難入院を受け入れた医療機関の設立母体：私立12医療機関、国立病院機構8医療機関

積極的に、事前避難入院を受け入れている病院の紹介：(文献3、4)

◎国立病院機構 沖縄病院

病床数 300床

(内訳：一般60床、筋ジストロフィー100床、神経難病45床、結核30床、緩和25床、地域包括ケア40床)

標榜診療科

(内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、外科、呼吸器外科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科)

停電時間予測が十分にできないか、あるいは停電時の電源確保が不十分となる可能性があるかと想定される場合、あらかじめ入院することが沖縄では行われている。

台風の影響の少ないうちに救急車を用いずに予定入院するのが基本
検査入院の患者さんに予定を1週間遅らせてもらい台風避難入院を優先することも起こりうる。

入院フローチャート参照(3枚目)

<引用文献>

(1)風水害に備えた人口呼吸器装着患者の避難入院－医療機関への提案－、日本神経学会、「難病患者の総合的地域支援体制に関する研究」班

(2)厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患政策研究事業)分担研究報告書
溝口巧一・小森哲夫・宮地隆史他：難病の地域支援体制の充実 避難入院の課題と台風10号に対する避難入院の状況について、厚生労働科学研究成果データベースより

(3)沖縄病院ホームページ：<https://okinawa.hosp.go.jp/>

(4)諏訪園秀吾：予測可能な災害への対策としての台風避難入院・沖縄での現状 2019、国立病院機構沖縄病院医学雑誌、40巻、p46、2020

台風発生

沖縄病院
台風時避難入院
フローチャート

各病棟へ入院可能な空床状況の確認
(各師長に PHS のメールにて「～時まで Comedix にて連絡をお願いします」と流す。)

有

空床の有無

無

各病棟師長を招集し、話し合いを行う。
調整後、空床状況を連携室まで連絡

在宅療養人工呼吸器装置難病患者リストより下記連絡先①～③のいずれかに連絡

連絡先

- ① 介護支援事業所ケアマネージャー
- ② 訪問看護ステーション
- ③ 患者様宅

入院希望の有無の確認
※台風避難入院予定期間を知らせる (2泊3日予定等)

入院希望患者の①～②の書類取り寄せをケアマネージャー等へ依頼する
① 訪問診療先から診療情報提供書 (人工呼吸器設定モード情報など)
② 訪問看護ステーションからの看護サマリー (在宅での看護状況)

病棟調整 (一般病棟・専門病棟への割り振り)

新里難病専門員 (不在時は外来師長) が入院登録を行う

調整された病棟へ入院

台風が通過後、退院